

第1回防府市庁舎建設懇話会 意見まとめ

まちづくり・活性化

1	懇話会	人口減少等いろいろな意味での地域の状況を考えると、早くコンパクトシティ、中心市街地活性化に着手していかなければならない。その中で市役所の果たす役割、インパクトは大きく、早期実現を目指すことが重要である。
2	懇話会	早期実現を果たすことはコンパクトシティを実現していく上で非常に効果的である。
3	意見書	超高齢化社会を前提にすると、車ではなく電車やバスなどの公共交通で来れる庁舎を、あるいは街全体が庁舎化するような、人の流れ、街の再配置を目指す必要がある。
4	懇話会	車で来て車で帰るので人の流れがない。車を使わなければ公共機関を利用し、駅から歩くことで人の流れができる。流れを作ることがまちの活性化につながるのではないか。
5	意見書	人口の減少が推定されている中であって、税収の確保も困難になりかねず、集落としての機能さえ失う地域も垣間見える状況もあることなどから、将来の負担を最小限にしておかなければ、市として取り組むべき事業すら対応できない事態を招きかねない。そこで、庁舎そのものは本来機能を重視したコンパクトなものとし、庁舎を起点とした新たな都市動線や庁舎への附帯施設については、民間活力により構築していくことはできないか。
6	懇話会	駅からの人の流れはアスピラートで止まっている。公会堂を解体し、そこに拠点を造れば、駅からの流れができアーケード周辺の活性化が図れるのではないか。駅からアーケード、公会堂といったエリア的に考え、中心街にいかに関係を作るかという視点から立地場所を検討してみてもどうか。
7	意見書	防府駅・周辺の商業を活性化させていくことも検討すべき
8	意見書	防府駅前の土地の有効活用を検討されたい。

国との一体的整備

9	意見書	国土交通省が提唱している「コンパクトでスマートな街づくり」や政府が地方創生の施策として提唱している「国・地方が相乗り」での取り組みを参考にモデルとなる市庁舎を検討されたい。
10	懇話会	庁舎の建替えについては国からの補助制度がないという状況で、国や県の出先機関を一体的に考えて建設すれば市債を立てる際の認定が受けやすくなる可能性もでてくると思う。
11	懇話会	国や県の出先機関を統合できるものは統合すれば、国、県、市の窓口が一本化し、コンパクトシティの実現につながる。
12	意見書	市民の利便性、コンパクトシティの考え方等から、国・県の出先機関の庁舎で建替え時期にあるものについては、市庁舎内に誘致、あるいは市庁舎敷地内か隣接する用地等を斡旋するなど積極的な働きかけをすべき。
13	意見書	市町村合併後、国・県の出先機関が合理化の名目で山口市に移転し市民の皆さんに不自由をもたらしている、この状況回復を求めなければならない。

位置

14	懇話会	公会堂を解体し、ここに市庁舎を建てれば代替地を求める必要がなく、建替えの間業務を続けることができる。
15	懇話会	公会堂の敷地は広くないと思うが、高層化すれば建設が可能ではないか。
16	意見書	防府市は未来の街づくりを見据えて鉄道高架事業を完成させ、公共交通(バス)等も防府駅を中心に動いている。超高齢化社会を迎えていく中で「新しい、これからの100年」を想定し、市民のために役に立つ施設は防府駅中心に検討されるべきである。
17	意見書	位置については、利便性を考えるのならJR防府駅を基点とした場所にすべき。

交通インフラ

18	懇話会	市役所の敷地にバスターミナル機能を持たせ、生活交通網と市民が用事を済ませたい商業施設や病院をリンクさせ、その中核的な施設として新庁舎が存在すればよりよいのではないか。
19	懇話会	バスに乗る、タクシーに乗るといふときに必ず考えなければいけないのは防府駅である。周辺にアスピラートやルルサスがあるが、一本道を入ると昼でもゴースタウンのような状況である。少し入ったところに市役所があれば、バスに乗って買い物もでき、周辺の医院や病院にも行ける。
20	懇話会	市役所の建替えは50年、100年先にも続いていく。高齢化の進行も想定されるため、その時の交通のあり方、交通インフラを十分に考えなければならない。
21	意見書	本庁舎と本庁舎外(保健センター)などを結ぶバス路線を充実化。

集約化と分散化

22	懇話会	長岡市庁舎はあえて分散的に市役所を置くことにより人の流れを誘発し、中心市街地の中を人々が歩くという戦略的な市庁舎の建て方をしている。分散化を課題としてとらえるか、戦略的にとらえるかによってコンセプトが全く異なってくる。
23	意見書	市庁舎の分散化も視野に入れてはどうか。
24	意見書	子育て世代(母子保健)、生活習慣病予防(成人保健)、母子推進員および食生活改善推進委員の拠点である保健センターは、150人を収容できる集会室や調理実習室を備えている。健康増進課を本庁舎に集約するとすれば、これらを確保するのは困難ではないか。
25	意見書	生涯学習課を本庁へ集約するとすれば、文化センターの各部屋の機能温存、オアシス教室、軽運動室はどうなるのか。これらを考えると、文化福祉会館の建設も視野に入れることになる。
26	意見書	公会堂をなくした場合、年間のコンサート・市民音楽祭・講演会など、収容人数も含め、アスピラートやデザインプラザで対応できるのかどうか。

財源等

27	意見書	懇話会としては、最大の夢を提案し、建設に向けての具体的な取り組みはその夢の中から引き出すという考え方もあるだろうが、防府市の財政力も十分に踏まえ、あるべき方向付けをする必要がある。
28	意見書	今後さらに進んでいく高齢化や人口減少という大きな波は避けて通れない。これは税収の減少にも繋がる。老朽化した多くの公共施設への対応も求められる中、市民の安全・安心な生活環境を確保する上で、その緊急性を考慮し、改善順位をつけなければならない。
29	意見書	市の財政力と大型の公共施設の建設による歳出の増加により福祉や教育関係の抑制という住民負担も考えなければならない。
30	意見書	市民を対象とした庁舎建設の公募債を発行してはどうか。市民が庁舎建設に関心を持ち、身近に感じることができ、市政への関心度、市内の活性化に繋がることも期待できる。

機能(全般的なもの)

31	意見書	機能・サービスの向上として、人の流れや動線を考えることが必要ではないか。
32	懇話会	市庁舎に市役所の仕事以外に市民の交流、あるいは避難場所といった拠点としての機能を含めてはどうか。
33	懇話会	例えば文化福社会館と公会堂を解体し、ここに市民の交流、あるいは避難場所としての機能を含めた市庁舎を建設するというように、庁舎のあり方や機能を考えるにあたり何を求めていくかという視点が大事。(東京都文京区 シビックホールの例)
34	意見書	順番待ちしているとき腰を降ろして待つことができるように、各階に待合室的な場所が確保できないか。
35	意見書	玄関フロアや会議室など、ちょっとした市民対象のイベントができるなどで来訪者を歓迎する催しができる場所を設けることはぜひどうか。
36	意見書	玄関ホールを広く設けて市民とのいろいろなイベント等にも活用できるように
37	意見書	屋上の一部分を市街地が展望できるように休憩所のような場所にしてはどうか。
38	意見書	市庁舎内にコンビニやカフェがあってもよいのではないか

機能(防災・防犯・環境)

39	懇話会	災害時に文化福社会館にボランティアセンターが開催された。1ヶ月そこで活動した際、市との連携を考えると市庁舎に設置されるのが望ましいと感じた。
40	懇話会	市庁舎に防災拠点を確保していくことが重要である。
41	意見書	防災拠点として市庁舎に災害対策本部の設置と共に災害対策本部、近隣住民の避難場所としても考えて欲しい。
42	意見書	延べ床面積、敷地面積については、防災の拠点、活動のためのスペース確保を是非ともお願いする
43	意見書	安全性については死角のない監視カメラの設置や警備が必要ではないか。
44	意見書	エコ・防災教育の観点から、太陽光発電等の自家発電を積極的に取り入れて欲しい。防災上の貯蔵機能はもとより、子どもたちへの教育の場にもなると思う。
45	意見書	太陽光を充分取り入れるべき
46	意見書	市庁舎の周辺の緑化

機能(ユニバーサルデザイン)

47	意見書	市庁舎が市民の利用しやすく意義あるものになるように願う。
48	意見書	市庁舎は市民生活の中心になるところなので高齢者、妊婦さん等誰にでも利用しやすい施設であってほしい。
49	意見書	市役所に用事で来た時、どこに行けばよいか迷う。分かりやすく案内表示がしてあると助かる。
50	意見書	利用者が多い窓口は、病院のように順番待ちの電光掲示板表示をしてはどうか。
51	意見書	雨・風・雪など、天候によっては正面出入り口以外にも庇があるとよい。
52	意見書	高齢者や障害者が利用しやすいように、床面の段差をなくす、階段の段差を低くする、カウンターの高さを低くする、利用の多い窓口を1階にまとめて配置する。2階以上になる場合は、できるだけエレベーターの近くに窓口を配置する、エレベーターを複数設置するなど配慮がほしい。
53	意見書	市民利用頻度が高い部署を1～3階に配置し、エレベーター、エスカレーターを設置、視覚障害者のための歩行誘導、聴覚障害者のための文字情報の充実、多目的トイレなどの実現化に向け、意見交流をしたい。
54	意見書	山口県庁のように全て高層にして、エレベーターを多く設置しないよう検討すべき
55	意見書	市民に直接関係のある窓口等は低層にすべき。高層と低層を取り入れた市庁舎の検討されたい。

サービス

56	意見書	他市にない防府ならではの、防府だからこそできるサービスを提供できたら素晴らしいと思う。総合窓口の設置。これに伴う庁舎コンシェルジュの設置。広報専門の部署を設けて工事期間中の現場見学や説明、社会見学、施設見学などにも対応するなど。
57	意見書	一日市長など子ども向けのサービスの充実をお願いする。
58	懇話会	今建設すると、これを今の子ども世代が維持していかなければならない。市民交流スペースや子どもたちが社会見学に来るなど、もっと身近に関わりあえる施設、子供の目線を考えてほしい。
59	懇話会	子供たちが市役所に社会見学に来るなど、もっと身近に関わりあえる施設になってほしい。
60	懇話会	工事現場に子供たちが社会見学に来るなど、庁舎建設の過程を着実に見せていくと勉強になり、防府市への愛着、将来の夢が出てくるのではないかと。
61	懇話会	長寿命化建築になると当然維持管理の問題が出てくるが、報告書には子供というキーワードがなかったように感じた。市役所をもっと開かれたものにしていくにはどうしたらいいかを考える上で、子供というキーワードをとらえていきたい。
62	懇話会	ルルサスに子供と親の遊ぶ場があるが、そこにお年寄りを加えるようなスペースを市庁舎につくれば世代間の交流が図れる。

象徴

63	懇話会	市役所は市の象徴なので、合理性を求めただけでなく、シンボリックで、市民が誇れ、他の市に訴えられるような、特色を持ったものをつくっていかねばならない。
64	懇話会	様々な機能を入れると象徴性が出てくる。その中で市庁舎のデザイン性等議論を進めたい。
65	意見書	県外・市外から来防された時、一目瞭然でわかる建物の外観が良い。

駐車場

66	意見書	建物にはゆとりのある面積算出が必要。駐車場については立体駐車場でもよい。駐車スペースよりもまずは庁舎スペースを考えることを優先すべき。
67	意見書	家族一人一人が車を所有している現代では職員の駐車場も含めて広い駐車場が必要。
68	意見書	駐車場台数が多くなるのであれば、駐車場の事故が生じないように進行方向の明示が欲しい。
69	意見書	駐車場は、乗降しやすいように車幅に余裕をもたせる。
70	意見書	高齢者・障害者用駐車場の台数の設定は移動困難な車いす利用の障害者以外の内臓障害・聴覚障害者等への配慮がある。又、買い物、通勤等で車を手放せない高齢者が増加している中、報告書で想定している4台では少ない。
71	懇話会	職員駐車場が駐車場敷地の半分以上を占めている状況だが、職員各自が確保するというような検討をしていく必要があるのではないか。
72	意見書	駐車場対策として、職員は2キロメートル、3キロメートル以内は自転車・徒歩での通勤を検討すべき

会議の進め方等

73	意見書	各種団体からの委員は個人の考えだけではなく、それぞれの団体の立場からの意見が出ると、結果としてより多くの市民の目線からの意見が出てくると思われ、より議論も活発になると思う。
74	懇話会	市役所のあり方を考える上で、例えば歴史をいかしたまちづくりというのがどう市庁舎を結びつくかというように、防府市の上位計画等と結び付けて整理し、具体的に検討してはどうか。
75	懇話会	上位計画等との結びつきから市庁舎はこうあるべきではないか、というある意味でのメッセージをまとめあげていくというスタンスを今後少しずつ整理して考えていきたい。
76	意見書	これから検討を進めたり、さまざまな意見に対応するには、庁舎のあり方と機能を防府市に即したものに充実する必要があると思う。これは防府市の上位計画などから導き出せるのではないか。
77	意見書	基本構想・基本計画等の策定段階では、施設のバリアフリー等の観点から意見・提案等を受けられるように委員に障害関係者を加えて欲しい。
78	意見書	子供の視点を取り入れるため、市内の小学生から高校生に対し、平成30年を建設時期とした新しい新庁舎の建設に向けて、自分たちが将来使い易いものとするための提案を求めてみてはどうか。応募については、今の市庁舎の固定概念を払拭するような応募基準を示し、自由提案させてはどうか。
79	意見書	来庁舎に対してアンケート調査を行ってはどうか。市民の庁舎利用についての状況が把握でき、目指すべき庁舎の検討材料になると思う。

報告書

80	意見書	報告書の中で、ユニバーサルデザインへの対応についてよく考えられていることが分かった。
81	意見書	報告書において、庁舎の位置・駐車場・駐輪場についていろいろな立場に立って計画が研究されていると思った。
82	意見書	報告書において、市庁舎の建替えについては、防府市民が誇りに思える見栄えのある庁舎であり、利用する市民にとっては便利さを、また職員が効率よく執務でき、市民サービスに当たれる等、様々な視点から検討されていることに敬意を表す。